



ハーモニカはどうして音がでるの

うすい金ぞくの板をふるわせて、音を出す

ハーモニカの口から中をのぞいてみると、うすい金ぞくの板が、はめこまれているのが見えます。このうすい板のことを、リードといいます。

うすい金ぞくの板をはじいたり、空気をいきおいよくふきつけると、板がしんどうして音を出します。音の高さは、この板の厚さや長さなどで、びみょうにちがってきます。この特ちょうをいかして、楽器にしたのがハーモニカです。

息をはいたりすったりして

ハーモニカは口で息をはいたり、すったりして、中のリードをふるわせて音を出す楽器です。息のふきつける強さを変えたり、舌の位置を変えたりすることで、音色や音の高低を調整したりします。ハーモニカを手でおおってふくと、くぐもった音になり、手でふるわせると、音もふるえるような音になります。

このハーモニカは、1890年代に日本に伝えられ、安くて手軽にできる楽器として急速に広まったのです。（監修 小川 格）

●ハーモニカの内部

